



萬代橋  
130周年

4回シリーズ

# 萬代橋とにいがた 誇りを未来へ

今から130年前の1886(明治19)年、信濃川下流に初代萬代橋が架かりました。当時はまだ別の町だった新潟町と沼垂町を結んだ木造の橋は、人々の暮らしを支え、まちの姿を変えていきました。にいがたと萬代橋の130年を4回シリーズで振り返り、にいがたと橋の未来をともに考えましょう。この先の未来も、萬代橋とともに。

第1回

# 新潟発展の礎を築いた、 夢の橋

新潟がまだ市ではなく町で、自動車も鉄道もなく、人も物も船で行き来していた1886(明治19)年、初代萬代橋は架けられました。新潟町と沼垂町に橋が架かれれば、それぞれの後背地である関東と東北が新潟で交わり、必ず新潟発展の礎になる。そんな願いと夢を託された萬代橋は、ゆつくりと着実に今の新潟市の核となっていきました。

## 日本一の大河に架かった日本一長い橋 渡り初めに2万人

### 萬代橋ができる前

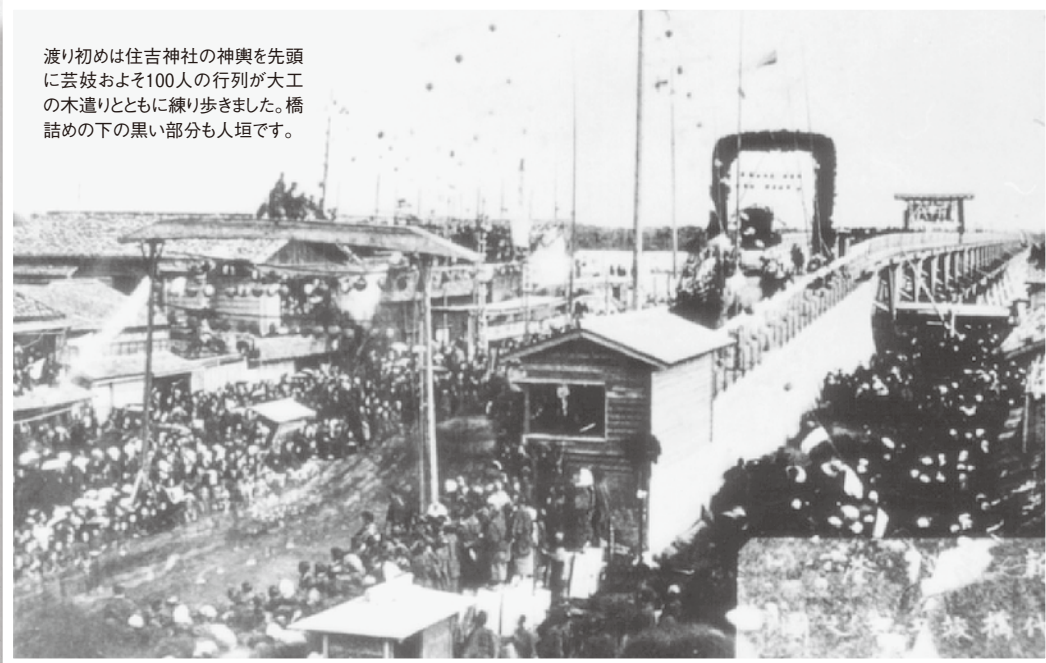
今の約3倍の川幅だった信濃川下流は、新潟町左岸(旧長岡藩)と沼垂町(右岸(旧新発田藩)の境界で、行き来は渡し船でした。風が強くと、特に冬場はたびたび船が止まり、時には転覆事故も起こりました。

### 妄想といわれた計画

新潟日日新聞社長、内山信太郎の架橋申請が県の許可を得たのは1886(明治19)年2月。内山は後に、船が止まって沼垂町に3日足止めされたことが架橋を決意した契機と語っています。しかし町民の間では「内山の大言壮語」と噂されます。川幅が770メートルあり増水も多かった信濃川は架橋自体が難しく、たとえ成功してもすぐに流失するだろうというのが当時多くの人の一致した見方でした。

### 盛大な渡り初め

竣工式は11月4日。誰も見たことのない巨大な橋と盛大な渡り初めを、一目見ようと近郷から訪れた人で宿が満杯になったといわれています。2万人という数字は数えただけではなく、萬代橋の上が人で埋め尽くされて身動きできないほどだったことから算出されました。



渡り初めは住吉神社の神輿を先頭に芸妓およそ100人の行列が木工の木遣りとともに練り歩きました。橋詰めの下の黒い部分も人垣です。

## 萬代橋に夢を懸けた人々

### 橋があれば新潟は必ず発展する



内山信太郎



八木朋直

萬代橋の架橋申請者で橋の所有者でもあった内山信太郎は竣工式で「社会の進歩と商業の隆盛に交通の便は欠かせない。一方は東北に、一方は関東に繋がる2町に橋が架かった意義は大きい」とその思いを語っています。橋の出資者で第四国立銀行頭取、八木朋直はかつて県庁で共に働いた仲。架橋翌年には八木にも所有権が移り、県有化まで八木が橋を経営維持していました。後に八木は「交通輸送に至大の便をもたらしただけでなく、広大な信濃川に虹のごとく架かる美しさを。萬代橋と言えは新潟、新潟と言えは萬代橋と言われるようになったのは喜ばしい限り」と語っています。

### 世界の名橋に 負けない強さと美しさを



古市公威  
(土木図書館所蔵)

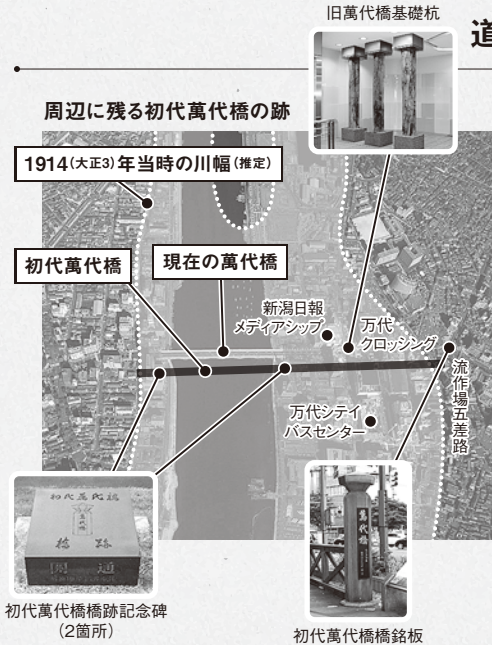
萬代橋の設計を行ったのは、当時内務省新潟土木出張所長として新潟に赴任していた古市公威。古市

はパリ大学に留学経験があり、日本の木材と伝統技術で欧米の名橋に劣らない強さと美しさを兼ね備えた橋を志しました。橋は架橋から22年で焼け落ちますが、川底に打ち込まれた基礎杭259本はそのまま2代目に使われ、1929(昭和4)年まで萬代橋を支えています。古市は当時32歳。この後帝国大学工科大学(現在の東京大学工学部)初代学長となり、4年後には内務省土木局長に就任。日本の近代土木の礎を築きました。

### 当時は渡り賃があった

当時は個人資本によるインフラ整備が認められていたため、通行料金を建設費や維持費をまかなう橋が全国にありました。萬代橋は一人1銭(当時のそば1杯がおよそ1銭)。一方、渡し船は1銭5厘(冬期3銭)でしたが「座って渡れる」という理由で架橋後も人気がありました。架橋当初は想定1/3ほどの1日2000人程度しか利用者がなく、一方で毎年のように増水と台風にさらされ、修繕費用が年間収入を上回る年もありました。個人所有での維持管理は現実には大変難しいもので、萬代橋は1900(明治33)年、県が買い取り適切な維持管理を行うと同時に無料化されました。

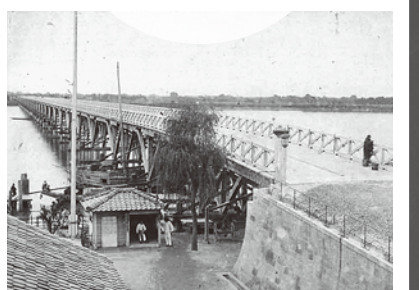
### 道は萬代橋をめぐってつくられた



1886(明治19)年、橋が架けられた当時の新潟は今とは全く違う姿をしていました。大河津分水路通水に伴い兩岸を埋め立てるまで川幅は今の約3倍もありました。当時の萬代橋東詰にあたる流作場は「作った作物が増水で流される場所」という意味で、家並みどころか道路もありませんでした。架橋後、沼垂まで鉄道が延び、沼垂町中心部から萬代橋まで県道今の万代町通がつくられ、新潟町側でも榎谷小路が延伸、拡幅され、両町は萬代橋を背骨にした町に姿貌しました。現在の新潟市中心部の姿は、萬代橋がつくったと言っても過言ではありません。

### 初代萬代橋

data



全長/781.7m 当時日本最長の木橋  
幅/7.3m  
竣工/1886(明治19)年11月4日  
所有者/内山信太郎  
出資者/八木朋直

命名者は内山信太郎で当初は「よろづよ橋」。架橋後音読みした「ぼんだい橋」が通称化して数年のうちに新聞や地図でも音読みがあてられた。

### にいがた みちコラム

#### 街と暮らしを支え続けるために



新潟県内には、約1万2000の橋があり、うち約1900橋が築50年を越えています。10年後には築50年以上の橋は約5100にのぼり、橋の経年劣化等が進んでいます。橋や道路を安心安全に使い続けるためには、定期点検や修繕が欠かせません。

〈次回予告〉  
第2回は9月3日に  
掲載いたします

大河の兩岸を結んだ萬代橋  
新潟の都市化、近代化になくはならない存在に  
人・モノ・まちをつなぎ  
発展を支えます

〈お知らせ〉

## 萬代橋130周年事業

初代萬代橋架橋から130年を迎える11月にむけて、新潟国道事務所、新潟県、新潟市、新潟日報社では実行委員会を組織し、写真コンテスト、シンポジウムなどの記念事業を実施していきます。詳しくは、ホームページをご確認ください。



問い合わせ先/萬代橋130周年事業実行委員会事務局(新潟日報社広告部内) 025-385-7432(平日9:30~17:30)

萬代橋130 検索

## 萬代橋誕生祭 本日開催!

●会場 萬代橋、信濃川右岸やすらぎ堤など ●時間 11:00~20:00  
3代目萬代橋の誕生日を祝い、水辺のカフェやコンサートなどを開催します。

主催/萬代橋誕生祭実行委員会

